



23:1 そこで、彼らは全員が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。

23:2 そしてイエスについて訴え始めた。彼らは言った。「この人はわが国民を惑わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることがわかりました。」

23:3 するとピラトはイエスに、「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは答えて、「そのとおりです。」と言われた。

23:4 ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には何の罪も見つからない。」と言った。

23:5 しかし彼らはあくまで言い張って、「この人は、ガリラヤからここまで、ユダヤ全土で教えながら、この民を扇動しているのです。」と言った。

23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ねて、

23:7 ヘロデの支配下にあるとわかれると、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころエルサレムにいたからである。

23:8 ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずっと前からイエスのことを聞いていたので、イエスに会いたいと思っていたし、イエスの行なう何かの奇蹟を見たいと考えていたからである。

23:9 それで、いろいろと質問したが、イエスは彼に何もお答えにならなかった。

23:10 祭司長たちと律法学者たちは立って、イエスを激しく訴えていた。

23:11 ヘロデは、自分の兵士たちといっしょにイエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はでな衣を着せて、ピラトに送り返した。

23:12 この日、ヘロデとピラトは仲よくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

ピラトは皇帝から任命されたユダヤの総督で、自分の仕事で面倒なことを被りたくないと思っていました。それを知っているユダヤ人たちは「カイザルに税金を納めることを禁じ…」と、彼が問題にしそうな部分を突いてきたのです。それでもピラトは自分の責任としなくなかったので、ヘロデのもとへイエス様を送りました。

多くの不信者がこのように自分の保身のために神を受け入れないでいます。ある意味、守るものがなくなってしまう人は、救いを受け入れやすいといえるでしょう。そのような人は幸いなのです。私たちも、自分を守るために神の真理から離れるということのないようにしましょう。

ヘロデは全くの興味本位でイエス様を見ていました。そのような人も現代にいるでしょう。イエス様は「何もお答えにならなかった。」のです。語っても無駄だからでしょう。

私たちの中にも、かつては興味本位で神を考えていた人もあるかもしれません。それでも神の忍耐によって、救われたことに感謝しましょう。そして今や、心からの主として従っている真摯な信仰のゆえに感謝しましょう。またそのように生きていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

